

# 家庭科学習指導案(6年)

1 題材名 持続可能な社会を生きる(「わたしたちの家庭科5・6」開隆堂)

## 2 教材観

### (1) 学習指導要領上の位置付け

「C消費生活・環境」(2)環境に配慮した生活

[知識及び技能]

ア:自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること。

[思考力、判断力、表現力]

イ:環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること。

### (2) 題材の価値

本題材は、環境に配慮した生活について課題をもち、持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え工夫する活動を通して、消費生活・環境に関する知識及び技能を身に付けるとともに、これらを解決する力を養い、身近な消費生活と環境をよりよくしようとする実践的な態度を育成する。

環境問題や資源の大切さについては他教科等でも扱っている。この題材では、家庭科の学習のみならず、他教科等や自身の生活の中から環境との関わりを意識させ、実践に取り組めるようにすることを目指す。ただ我慢するのではなく、生活の充実と環境に配慮することをいかに両立させて生活していくか、考えられるようにしていきたい。

### (3) 今後の学習への活用

中学校技術家庭科の目標(3)【よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う】

## 3 児童の実態及び指導方針(27名)

### (1) 既習の学習内容や活動

- ・「C消費生活・環境」(1)「物や金銭の使い方と買物」では、身近な物の選び方・買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理の方法を学んだ。また、購入した物の活用について振り返り、環境に配慮した物の使い方を見直すことをしてきた。
- ・「B衣食住の生活」(2)「調理の基礎」、(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」では、実習材料の無駄のない使い方について考え、資源やエネルギーなどを視点として調理実習における材料や水、電気、ガスなどの使い方を考えることをしてきた。B(6)「快適な住まい方」では、環境に配慮した物の使い方について理解し、整理整頓や清掃の学習と関連させて、ごみの分別や減量の仕方を工夫してきた。
- ・環境問題や資源の大切さについては社会5年【環境への負荷】や道徳5・6年【自然愛護】など、他教科でも学習してきた。

### (2) 本題材に関わる児童の実態

#### 【知識・技能】

- ・調理についてはコロナ対策により、学校での実習ではなく各家庭で実施した。それぞれの家庭での省エネやごみ処理の方法など、工夫している点を持ち寄り共有することもできた。
- ・5年次から『SDGs』について教科横断的に学んできている。6年2学期には、NHK主催の「SDGsかるた」で、一人一人が高い意識をもって、17の目標の中で興味ある問題について調べることができた。

#### 【思考・判断・表現】

- ・物の選び方については、無駄を減らす(Reduce)視点を理解しており、身近な筆記用具など最

後まで大事に使っている様子が見られる。自分で買い物をする機会があまりなく、無駄遣いをするということもない児童がほとんどであり、修学旅行では決められた小遣いの中で上手にやりくりしていた。ゴミの始末の仕方については理解しているものの、家庭によってその取り組みの差があり、自ら分別するというよりは家庭のやり方を理解した上で、言われたとおりに行っている児童が多い。

### 【主体的に学習に取り組む態度】

- ・パワーアップの時間に取り組んでいる「読売ワークシート通信」では、SDGsの表示があり、日ごろより子どもたちにとっても身近な問題として認識されている。その一方で、自分事として主体的に実践しようとする意欲や態度には結び付いていない部分もある。

### (3) 指導方針

- 題材の導入では、教科書やこれまでの学習を踏まえて『          SDGsをつくろう』という題材を通した課題を設定することで、児童にとって身近な問題として追究できるようにする。
- 「つかむ」過程では教科書の絵（フォトランゲージ）をもとに、自分の生活と比べることで、環境と生活のつながりを整理できるようにする。
- 「追究する」過程では、近年日本のごみの排出量が減少していることや、電力消費量が減少していることを資料で示すことで、技術の進歩や国民意識の変化に気付き、省エネ等の我慢をする方法だけではなく、衣食住・消費等の生活を充実させながらも環境の配慮をする必要性を学べるようにする。
- 児童が各家庭で日ごろから取り組んでいる環境への配慮の様子を、ICT 端末のカメラ機能を活用し持ち寄ることで、密接に生活と環境が結び付いていて具体的に自分ができることがないか話し合う助けとする。
- 「まとめる」過程では、持続できる実践を報告・交流し、『生活チェックリスト』をまとめることで、継続的に今後の生活に生かせるようにする。また、それを下級生にも紹介することで、継続的に自ら実践できるとともに、学校全体で取り組んでいけるようにする。

## 4 題材の目標

- ・自分や家族等の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方を理解する。
- ・物の使い方や環境に配慮した生活について、自分の生活の中から課題を見だし、解決に向けて実践し、振り返ることができる。
- ・環境に配慮し、生活をよりよくしようと家族の一員としてできることを考える。

## 5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自分の生活と身近な環境との関わりについて理解している。	① 環境に配慮した生活について問題を見だして課題を設定している。	① 環境に配慮した生活について課題の解決に向けて主体的に実践しようとしている。
② 自分の生活と環境に配慮した物の使い方などについて理解している。	② 環境に配慮した生活について考え、工夫している。	② 環境に配慮した生活について課題解決に向けた一連の活動を振り返って、改善しようとしている。
	③ 環境に配慮した生活について、実践を評価したり、改善したりしている。	③ 環境に配慮した生活について工夫し、実践しようとしている。

6 指導計画（全4時間予定）

○：記録に残す評価

・：指導に生かす評価

学習過程	時間	○ねらい ・学習活動	・主な指導上の留意点	評価の観点
つかむ	1	○自分の生活が環境に与えている影響について理解し、環境に配慮した生活を考える。 ・教科書P.124・125のイラスト上部（環境問題）と下部（わたしたちの生活）から、生活が環境に与える影響について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を想起するよう促し、複数の事象のつながりを意識できるようにする。</li> <li>デジタル教科書の資料を提示し、利便さ・清潔さ・流行などの多岐にわたるニーズが増えることに気付けるようにする。</li> <li>教科書の挿絵から問いかけ、快適で文化的な生活の追求と、環境へ配慮することのバランスを考えられるようにする。</li> <li>持続可能な社会のために小[ ]でできることを考えられるよう[ ]『SDGsづくりをしよう』という課題で追究していくことを提案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知・技①】（観察）</li> <li>【思・判・表①】（ワークシート）</li> </ul>
追究する	1	○環境に配慮した物の使い方などについて理解し、課題を見だし課題解決に向けた取り組みを考える。 ・ごみの排出量のデータとエネルギー使用量の資料から、世界の中の日本の生活の実態について考える。 ・私たちの生活と環境について、キーワードをもとに何ができるか調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮する意識・取り組みが企業・家庭で進んでいることを、新聞記事を紹介しておさえる。</li> <li>左記の資料から分かることを話し合い、依然として日本の環境負荷が高い現状を捉えられるようにする。</li> <li>海洋汚染、エネルギー資源、水、空気、食品ロス、ゴミ、温暖化などのキーワード示し、ICT端末を使用して問題点、原因、対策について調べられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知・技②】（ワークシート）</li> <li>【主体態①】（ワークシート）</li> </ul>
	1 (本時)	○自分の身の回りで既に実践されていることをICT端末のカメラ機能で撮影、調査する。（家庭等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の身の回りで既に実践している点を家庭等で調査するよう促す。その際、ICT端末を用いて記録させ、調査内容を報告できるようにする。</li> </ul>	
	1 (本時)	○調査したことをもとに、環境に配慮した実践計画を考える。 ・調べた内容を互いに報告し合い、身近に実践できる内容にまとめる。 ・食生活、住生活、衣生活、消費生活・環境のそれぞれの場面でできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活に取り入れられそうな行動を意識させる。</li> <li>小さなことでも日頃からできることを考える。</li> <li>何のために実践するのか、理由とともに考えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【思・判・表②】（観察）</li> <li>【主体態②】（観察）</li> </ul>
		○実践計画に沿って取り組む。（家庭等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践計画どおりにできているか自身で記録できるよう、ワークシートを配布しておく。</li> </ul>	
まとめる	1	○実践や家族等が行っていることを振り返り、環境負荷に配慮した生活を継続していくために、[ ]『DGs』をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組みやすさ、継続のしやすさなどの視点で話し合うよう促し、話し合った内容と評価した視点を参考にして、継続できそうな実践を考えられるようにする。</li> <li>一度の大きな実践よりも継続することの重要性についても気付けるように、企業の取組等を紹介する。</li> <li>まとめた[ ]『SDGs』は、通信を通じて家庭や他学年へも伝えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【思・判・表③】（まとめ用紙・観察）</li> <li>【主体態③】（まとめ用紙・観察）</li> </ul>

## 7 本時 (3/4)

- (1) ねらい 家庭で撮った写真を基に自分たちのグループで実践することを話し合うことを通して、取り組みやすく継続できる、環境に配慮した生活のための実践計画を考えることができる。
- (2) 準備 デジタル教科書、ICT 端末、ワークシート
- (3) 展開

学習活動 ・予想される児童生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価 ◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価
<p>1 前時の学習や家庭等での調査結果を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「持続可能な社会」と自分たちの生活は関わっているのだな。自分の将来や未来の人たちにも影響するのだな。</li> <li>・今日は、キーワードについて調べたことと、撮影してきた家庭での写真を基に、実践計画を立てるのだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会とは『地球環境や自然環境を守りつつ、将来の人たちにとっても、今のわたしたちにとっても必要なものが満たされるような開発が行われる社会である』ことを確認する。</li> <li>・自分の身の回りや家庭で取り組んでいる様子を撮影したものが、ICT 端末で提出できたか確認し、グループ毎に実践計画を立てる事を提案し、本時の方向付けをする。</li> </ul>
<p><b>【めあて】</b> <b>調査結果をもとに、グループで話し合っ、よりよい実践計画をつくろう。</b></p>	
<p>2 環境に関するキーワードについて調べたことを発表し合う。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題と要因、それに対して何ができるのかを調べたけれど、共通する部分が多いな。</li> <li>・海洋汚染、エネルギー資源、水、空気、食品ロス、ゴミ、温暖化、これらの課題に対して自分ができることもあるのだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ学習支援ソフトに提出していた調査結果から、児童にそれぞれの問題点について発表するよう促す。</li> <li>・児童の考えがまとまったところで、自分の生活の中でできることを具体的に考えることを提案する。</li> </ul>
<p>3 身の回りを調査した結果をグループで共有し、4つの場面に分けて習慣化していることと更にできることを話し合う。(25分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活：こまめに水を止めるようにしているけど、お手伝いで食器を洗う時にはため洗いしていないからできるといいな。</li> <li>・衣生活：衣服は大事に着ているけど、ボタンが取れた時には自分でつけられるといいな。</li> <li>・住生活：エアコンは設定温度を気にしているけど、団らんの時間を増やして、家族で集まればその部屋だけでもよいのかな。</li> <li>・消費生活：買い物の際エコバッグは使っているけど、簡易包装のものを選べるともつといいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の授業までにグループで考えたことを実践してみることを伝え、協力して意見が出せるようにする。</li> <li>・キーワードで調べた結果を踏まえ、小学生でもできることを挙げていけるようにする。</li> <li>・円滑に話し合い活動を進めるために、             <ol style="list-style-type: none"> <li>①写真を見て自分の意見をもつ</li> <li>②写真を紹介しながら自分の意見を伝える</li> <li>③グループとして実践する内容を絞る</li> </ol>             以上の手順を黒板に提示しておく。           </li> <li>◎4つの場面ごとに例を挙げ、当たり前にも思えることも入れていいことを示す。</li> <li>・グループ実践を考える際に、「自分や家族が取り組みやすいこと」「続けてできること」を観点に示し、よりよい実践計画につなげられるようにする。</li> <li>・グループ内での意見が出揃ったところで、全体で共有する時間をとり、もう一度グループで検討し、実践案を練り直す時間をとるようにする。</li> <li>◇環境に配慮した生活について考え、工夫している。【思・判・表】(観察)</li> </ul>
<p>4 本時の振り返りをする。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで考えた実践計画を次の授業まで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時には実践した様子を報告し合い、『<span style="background-color: black; color: black;">          </span>DGs』づくりをする事を伝える。</li> </ul>

に実践するのだな。  
・他のグループの実践も合わせて  
SDGs』を作るのが楽しみだな。

◇環境に配慮した生活について課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。【主体態】(観察)

## 8 板書計画

1 / 25

持続可能な社会を生きる **めあて** 調査結果をもとに、グループで話し合っよりよい実践計画をつくろう。

地球環境や自然環境を守りつつ  
将来の人たちにとっても  
今のわたしたちにとっても  
必要なものが満たされるような  
開発が行われる社会

### エネルギー資源

- ・石油には限りがある
- ・原子力発電は危険

### 水

- ・海洋汚染
- ・生活排水や工場排水

### 空気

- ・大気汚染

### 食品ロス

### ゴミ

### 温暖化

### 話し合いの手順

- ① 写真を見て自分の意見をもつ
- ② 写真を紹介しながら意見を伝え合う
- ③ グループとして取り組む内容をそれぞれ2つ位にしぼる

### 食生活

### 住生活

### 衣生活

### 消費生活-環境

### 観点

- 自分や家族が取り組みやすいこと
- 続けてできること